

「鬼太鼓の森」現地説明会への参画

「鬼太鼓の森」は、国民参加の森林づくり活動の一つである「木の文化を支える森」として、佐渡市にある国有林に造成されています。佐渡島における伝統的な芸能である鬼太鼓を未来永劫継承するため、太鼓やバチの材料となるケヤキ等を長期的に確保することなどを目的に、平成19年、「鬼太鼓の森づくり」協議会と当署が協定を締結し、その後、ボランティアと協議会関係者等による苗木の植栽や保育等の森林整備活動が実施されています。

この協定が本年4月に更新されたこと、植栽木の成長を促進するためには光環境の改善等が必要であることなどから、11月15日、「鬼太鼓の森」において、この森の今後の造林計画案等についての説明会が開催されました。

協議会関係者、森林組合、当署職員合わせて14名が参加し、光環境を改善するためのスギ伐採、その伐採跡地に新たにケヤキ（大苗）を植栽すること等について意見交換が行われ、造林計画に沿って森林整備を進めることとなりました。なお、造林計画の作成にあたっては、新潟大学の先生から助言をいただいています。

参加者からは、「『鬼太鼓の森』が市民にほとんど知られていない」、「市民の集う森にしたい」、「最終的にできあがる森をイメージすることが大事」、「『鬼太鼓の森』は、数百年という長いスパンで始められた取組みであることから、あとの人がきちんと受け継がないといけない。」といった発言もありました。



(当署長から挨拶)



(現地にて計画案の説明と意見交換)